

国際学術交流で培った絆は 長崎大学の財産

先月、初めてロシアを訪れる機会を得ました。目的は、モスクワ郊外の研究都市オブニンスクで開催された「チェルノブイリ原発事故30周年記念シンポジウム」への出席でしたが、その後、複数の協定大学等への表敬を兼ねてモスクワからサンクト・ペテルブルグへと足を延しました。ロマノフ王朝の栄華の跡に驚嘆し、プーシキンやドストエフスキーを生んだロシアの大地の香りを満喫する等、心に残る旅となりました。

今回の訪口の最大の収穫は、長崎大学とロシアの絆の強さを改めて認識できたことです。ロシア人研究者の長崎大学への信頼と敬意を皮膚感覚で感じることができました。30年前のチェルノブイリ原発事故以来、原爆後障害医療研究所や医学部の多くの研究者・学生が現地に赴き、放射線健康リスク管理に関する協働研究や医療支援、人材育成に尽力し続けてきた長年の努力の賜物です。ロ



シアに限らず、放射線被ばくという課題を共有するウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンにおいても同じことがいえるのだと思います。これらの絆は、将来の発展の基盤となる長崎大学の大切な財産であることを確信しました。

広島・長崎の原爆から、チェルノブイリと福島原発事故を経て、放射線健康リスクは、今や地球規模課題としての災害リスク管理の重要な柱に位置付けられています。本学を中心とした世界の被ばく地の科学者ネットワークが果たすべき役割は大きいのです。

放射線健康リスク分野の研究と教育は、長崎固有の歴史に基づく長崎大学の個性です。長崎大学は、他にも大学の個性に基づく長崎大学ならではの様々な特色ある教育プログラムを学生諸君に提供しています。そのなかから、世界や地域に光を放つ多くの「長崎大学ブランド人材」が育っています。

片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.56

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	国際学術交流で培った絆は長崎大学の財産	1
特集	長崎大学ブランドの人材育成	2
研究最前線	菌周病細菌の研究からみえてきた腸内細菌叢の有り様の調節可能性	13
卒業生に聞く	榎本英人さん	15
地域で活かされる長崎大学の「知」	島原半島の水質保全に文理融合チームが挑む	17
グラバー図譜	マナガツオ	19
Information	平成28年 長崎大学オープンキャンパス	21
	長崎大学「通」クイズ & 編集後記	22

表紙のはなし

今回の特集でも紹介している離島実習。島で行われる健診は、医学部・歯学部・薬学部の学生の大変な実習現場の一つです。写真中央はコーディネートを任う離島医療研究拠点の小屋松淳助教。向かって左は薬学部、右は歯学部の学生たち。溶岩石を積んだ石垣があちこちに見られる五島市富江町での一コマです。